

# 内観ニュース

第27号

発行所  
日本内観学会

〒637-0015

神戸市灘区篠原伯母野山町  
神戸松蔭女子学院大学心理学部  
三木研究室 ☎078-682-8764

村瀬嘉代子

(大正大学人間学部・カウンセリング研究所)

## 「素直」の気づきを生み出すもの、 育むものとしての「素直」

私が内観を知りましたのは、主人の村瀬が吉本伊信先生のところにお伺いした二九六八年頃でした。吉本先生は村瀬に、内観が発展する為なら協力する、内観の特質を研究し広く世間の理解を得るようにと、面接の合間をぬって、鉄道便でテープや面接記録を沢山送ってくださいました。

僅か一週間の集中内観で劇的な効果があるのは何故かと考えてみますと、虚飾や無駄をそぎ落として非常に本質的な要素、人が本当に求めている要素を提供しているからではないでしょうか。ですから、その場のもっている特質も「素直」ですし、それから内観の面接者ももっておられる特質というの、本当に聴く事に徹する、凝縮された貴重な対面の状況でありましょう。

さて、「素直」は、実は、精神的分析的なオリエンテーションの面接でも現れます。留学した際、精神分析主流の環境で勉強しましたが、人が気づきを得る、洞察を得た瞬間のそのクライエントの方というのは、本当に輝くような素直な表情と、何か諸々のものが一瞬そこから解き放たれて、次の次元に開かれるような状態になられるのを経験してまいりました。そう考えると、実は内観の本質と言われている

「素直」は、人が新しく気づき、より高次の世界に開かれる瞬間の、諸々のものの束縛からより自由になって、ありのままの自分を見つめ、気づく状態、これは他の心理療法と共通するのではないかと、そこが内観の普遍性ではないかと思うのです。

対機説法について昨日から何度か語りましたが、技法としての内観が簡素であるが故に、この対機面接をされている面接者自身が、その場で何を感じ何を考えどう聞いていたかという事を、現象に則して詳細に吟味する事が、必要であると思います。一度集中内観をすると面接者としての資格を有するという事は、原則ではそうでも、本当は、集中内観をした上で常に自分自身を静かに見つめている営みを不断にすることが求められましょう。

これは内観の面接者だけでなく、そもそも臨床の仕事というのは人様の不幸がある上に成り立っていて、人様がその考え方や感じ方を変えていかれる場に介在しているわけですから、自分のことを括弧に入れて相手に変容を期待するのは不遜なことで、臨床に携わる者はすべて基本的に常に自己省察を行うべきだと思います。面接者の中に生起してくる様々な思考、感情を、より現象記述的に明らかにするべく検討すると、内観の促進要因が明らかになるかと考えます。

内観面接者としてのあり方を考えるとき、吉本先生は、育ち盛りのお子様か四人いらっしやるのに、一つ屋根の下に、先程まで見知らぬ他人であった方を招き入れて、しかも初めの頃は無償で内観をなさっておられた、このように身を挺して自身の家庭を開くという事の意味の重さを考えずして、内観を観念論だけで解説するのはいかがなものでしょうか。その人とその方法論が分かち難く結びついている、という最たる例が吉本伊信先生と内観法でありましょう。

ケン・ウィルバーは、ものごとを考える際の視点を三つ(人称としての視点、二人称としての視点、三人称としての視点)に大別しました。つまり内観も「私が」「私達が」体験した内観、あるいは「あなた」の内観、こういう属性をもっておられる「あなたの方」のような方が

される内観、さらに『それ』としての内観(内観にはこういう特徴がある)と対象化して特質を描き出すべくいろいろな概念を用いて解説する)という3つのスタンスがあることになります。どのスタンスも勿論有意義ですが、しかし人の生き方に関わる方法としてある対象について考える時に、やはり三人称だけで考えるのは評論・解説調になりませんし、それから二人称だけですと、一勿論聴き手がそこにある普遍的な特質は何か、それは自分に照らし合わせてどうか、聴き手がそこを努力して考えればいいのか、あまり私小説的であつてはいささか公共性に欠ける、ですから難しい事ではあります。この内観について考える場合に、この三つの視点を常に自分の中でバランス良く持ちつつ、しかも常に自分に触れながら検討することが望ましいと思われまふ。自分に触れなくて観念論的に論じる事は、先程申しましたように、吉本先生が存在を賭けて創案されたこの方法の本質を活かすことから遠ざかるのではないでしようか。資質、あるいは人として面接者がどうあるかということと技法を、いつもバランス良く考えていくことが必要でしよう。

さて、日本で『素直』というのはポジティブな意味に使いますが、欧米では『素直』はそのまま日本のような意味でポジティブには使われなところもあるかと思ひます。その文化的な対比については、村瀬(九九五)が挙げております。私が先程来から申しております、臨床場面で人が非常に大切な気付きをされ、新しく生きる意味を見つけれられる、自分の存在にある種の感謝や喜びや、そういうものを持つ時の素直さに介在するためには、クライエントが素直になられる前に、実は面接者あるいは援助者がいかに素直でありうるか、そしてもう一つ、場の持つ要素としてやはり、いい意味での自然さ、クライエントが自己表出をしやすいように、それから背景と調和するようという、決して贅沢とかでなく何気ないお部屋のしつらえ方も大切な要因だと考えます。

面接者もしくは援助者が素直であることと、場の持つ要素としての自然さがある時に、クライエントの『素直』が生じると思うので

す。瞬時にクライエントの小さなしぐさや表情、あるいはちよつとした足の運び等々から、その背景にあるものを思い描くことができるような観察力、気づく力が必要であり、そのためには生きた使いこなせる知識と経験が必要となります。この『素直』というのはただ決して何も素のまままでナイーブ、というわけではなく、出来る限りいろいろな事にいい意味で開かれ、様々な事を用意会得している、しかもいろいろな方法の長短を知りながら、それに捉われないような、そういう自分になれるかどうかというところがポイントではないでしようか。面接者の資質や訓練、そして自分はどうあるかを問うことが課題だと考えております。

この『素直』という事は、いろいろな熟慮、配慮の上に、しかしそれに捉われずして、自分の限界を知り、どこか人として共通の地平にある事をそのまま受け止める、そういう人為と、それから人為を離れ、自分の力の限界を知って捉われない、という事のせめぎ合いの内にある、その状況を創出していくことで、私は臨床の中で意味のある出会いが出来るのではないかと考えます。したがって、人に関わる、人を援助するということの営みというのは、常に今申しましたような自分の中に、その方とその場とその時に相応しい『素直』という状況を自分の中にどう生み出せるか、それからその場をそのような雰囲気にしつらえていけるか、それが実は臨床の本質であろうと思ひます。その意味で吉本先生がお考えになられた原法というのは、この要素が非常に見事に凝縮しているものではないだろうか、そこにいつも思いをいたしながら技法の工夫をしていきますと、技法の方だけ考えると、本来それをもっていた息吹というものが弱まるのではないかとふうにも思ひます。これほど普遍的な特質をもった方法というのには、他になかなか無いのではないかとふうに思っております。

(本文は、第二六回日本内観学会香川大会の特別講演の一部を本紙のために抜粋して載録したものです)

## 【内観研究】

## 内観体験前後の変化にユング

大正大学修士課程 石井 一光

## 【問題・目的】

内観を体験するということは、自分を見つめなおすことであり、家族との関係を見なおすことでもある。従って内観は、内観者の内面、そして、内観後の家族イメージ、家族との関係にも影響を及ぼすと思われる。

そこで本研究では、内観者の内面の変化、家族イメージの変化を探ることを目的とする。集中内観に自主的に来る人は、その他の人々とは違う傾向や特性をもっているのか、過去の集中内観体験の有無、性別、年代によって変化に差がみられるかどうかについても検証を行う。

## 【方法】

瞑想の森・内観研修所に自主的に来所し、二週間集中内観を行い、かつ任意にアンケートに回答して下さった方五六名に協力を得た。比較のために、内観を体験しないで日常生活をおくっている方三名を非内観群とした。

材料として、CPI、MPI、動物家族画をもとに作成したアンケートを用いた。CPIとMPIを用いることによって、被験者の積極的側面と神経症的側面を同時にみることができ、動物家族画を用いることによって、言語的なテストにはあらわれない変化を、グラフィックな投影によってみることが出来る。

筆者の主観が入る可能性のある動物家族画を、客観的な変化の測定方法で補うという効果もあるだろう。内観群は集中内観の前後に二回、非内観群は一週間の間隔をおいて二回、アンケートを実施した。

## 【結果・考察】

結果は、CPI、MPIの採点表、I.Brem-Gasserの「動物になった家族」"Familie in Tieren" (九八六)を参考に解釈した。非内観群一回目と内観群内観前、非内観群二回目と非内観群二回目、内観群内観前後、内観初体験群の内観前後、内観既体験群の内観前後、内観群男性の内観前後、内観群女性の内観前後、内観初体験群の内観後と内観二回目群の内観前、の各尺度平均値の比較を行った。

その結果、内観群の内観前と、非内観群の一回目に有意な差はみられなかった。この結果により、様々な理由で内観研修所に来所した人が、特異な傾向や性質を持っているのではなく、他の人々とほぼ等質であることがわかった。非内観群においては二回目と二回目の間に有意な差はみられなかった。

これに対して、内観群においては、内観によって神経症的傾向が有意に減少する一方、外向性・社会的安定感・自己満足感・責任感・社会的成熟性・自己統制力・寛容性・自己顕示性・融通性といった積極的側面が有意に増加することが明らかになった。内観によって、自己の価値を認め、自分に自信をもち、自立的な思考をもつていながら自己中心的ではなく、他人に対しても寛容な、誠実で責任感のある、社会的に成熟した、心身ともに健康な人間へと変容するといえる。

また、性別・内観体験の有無・年代別により変化に差がみられる項目はあったものの、内観を体験した全ての群において、積極的側面が増加し、神経症的傾向が下がるという結果が得られたことから、性別や年齢に関わらず、誰でもいつでも内観を行う意味があると考えられる。描かれた絵では、内観後に、自己イメージ、家族イメージが変わり、家族との一体感をもった様子があらわれた。そして、両親の価値を認め、親近感を持つといった、両親像の肯定的な変化がみられた。

現在内観は少しずつ世界に広まっている。日本で生まれた内観が、世界の人々にとっても同じような効果があるのか、効果に違いがあるのかを探っていききたい。この点については、ドイツ語を母国語とする内観者の方々の協力を得て、検証を続けている。

〔緊急提言〕

## 内観・内観療法の倫理問題について

日本内観学会 倫理・資格検討委員会

日本内観学会（以下、本学会）が設立されて四半世紀になり、どの心理（精神）療法にも出現している倫理問題が、本学会にもいくつか出てくるようになりました。内観者のプライバシー侵害の問題、内観中の事故の問題、内観指導者と内観者関係性の問題、内観の強制の問題など多岐にわたります。

これらの内観に関する倫理問題について、日本内観学会倫理・資格検討委員会は、内観の倫理問題について話し合いを続けています。来年、二〇〇四年の学会までに倫理基準の骨子を作成し、日本内観学会認定内観面接者倫理綱領の原案も提示できるようにする予定です。

そのいくつかをここに紹介したいと思います。

一 内観、内観療法は、内観をする人達（内観者）の自己の成長・確立、心身の健康の増進、幸福の追求などのために行うもので、自らの意思で行われるものです。

二 内観者の基本的人権は尊重され、内観者の意思に反して、そのプライバシーの侵害や強制が行われてはなりません。

三 内観面接者（指導者以下略）は、内観を援助することが内観者当人に対して、さらにその家族を含めた周りの人々に対してそれ相当の影響を与えるものであることを充分自覚し、社会人としての基本的な良識を持ち、自らの援助者としての責任をもたなくてはなりません。

四 内観面接者は、決して個人的、商業的、政治的、宗教的目的のために内観の援助を行ってはならず、面接者への信頼感や依存心を不当に利用しないように留意する必要があります。

五 内観面接者は、常に自らの研鑽を継続し、一定以上の水準を保つべく努めるとともに、自らの能力と技能の限界についても十分にわきまえておく必要があります。

六 内観面接者は、内観者の秘密を守り、プライバシーの保護に充分留意する必要があります。研究や公的発表に際しても、内観者や関係者に負担をかけたり、苦痛や不利益をもたらすことがあってはいけません。

七 日本内観学会は、基本的人権の遵守を倫理の基本とし、よりよい内観、内観療法のあり方を求めて、今後も見直しを続けていきます。

以上、現段階における倫理・資格検討委員会で話し合った結果を報告しましたが、倫理の問題や資格制度について会員の皆様からのご意見、ご要望などどんな些細なことでも構いませんので、お寄せいただくようお願い申し上げます。

堀井茂男（委員長）・木村秀子・滝野功・高口憲章・真栄城輝明（事務局）が委員会を構成しております。

なお、事務局の連絡先は次の通りです。

## 日本内観学会 倫理・資格検討委員会

〒六三九—一一三三 奈良県大和郡山市

高田口町九—二

大和内観研修所内

TEL 〇七四三—五二—二五七九

FAX 〇七四三—五四—一三七六

## 九州内観懇話会に参加して

団体職員 中瀬 昭隆

九州内観懇話会は、福岡で内観ワークショップ、内観学会の会長竹元先生の地元、鹿児島県の指宿での内観学会を機に作られ、この八月で二八回を迎えました。二月と八月の年二回開催で、九州各県での順繰りの開催です。

懇話会の会長は、吉本原法を大切に守り、自らも何十回と大和郡山に通い飲まず食わず寝ずの内観の道を求め続け、吉本先生亡き後、キヌ子夫人をして、「これで貴方も転生悔悟の境地に達しましたね」と言わしめた多布施内観研修所の池上吉彦先生、事務局長は精神科医の高口憲章先生のお二人を中心に、開催地の世話役の方のお世話で今日に至っています。

今回は佐賀県武雄市で開かれ、「如蘭塾」という地元出身で昭和の始めから中国に事業を拡大し、財を成した事業家が中国と日本がお互いに理解を進め、相互の歴史文化を学びあうために中国からの留学生を迎え入れた、由緒ある建物での開催でした。そういう目的で作られたこの施設も数年のうちに日本の敗戦で役目を終え、今また当初の目的に近い中国人留学生を受け入れているようですが、その建物の辿った運命と重ね合わさるような内観体験談を拝聴できました。

恋人から勧められ背中に刺青を彫り、親に反対される結婚をし、子供まで産んだのに、捨てられ、親子二人で生きていくために昼、夜と二日中働き続け、相手を恨みながら今日まで生きて来た三十代の方の話です。

自業自得だから親には意地でも頼れないし、まして世間様から後ろ指を指されるような事があつてはならないと、身を張って今日までひと時も気の緩むことの無い人生だったそうです。

内観は同じ職場の方に勧められたが、子供の面倒も見なければならぬし、一週間も家を開けられないと嫌がったのに無理やり連れて来られて、

しおしお「何で私を受けなくてはいけないの」と疑問を持ちながら、内観に入られたそうです。

二人で生きるためには、昼間の仕事だけではやって行けずスナックとかクラブなどの夜の仕事もして来られたそうですが、背中への刺青が気になり、閉店後のお客さんの「食事でもどう」と言う誘いにも一度たりとも乗らなかつた事も、内観して考えれば、刺青のお陰だと思えるようになったとのこと。

今まで相手を恨んでいたことが消え、わが身を守るお守りだったのだと思えるようになったとのことで、改めて内観の素晴らしさを再認識しました。

懇話会では、体験談の発表や、午後は体験者による意見交換や、未体験者には、二時間ほどの内観体験も用意されています。

多布施内観研修所でその朝まで内観をしていたと言う高校の先生も迎えに来た奥様と一緒に出席されました。アル中で病院に入りそこで内観に出会い、今回で何度目かの内観だったようです。

もう一人の会社経営者の体験談では企業での内観の導入が社員のやる気をおこし、会社の業績にも繋がったという話をされました。

二月の大部分での懇話会の折、お世話をして下さった地元大分の自動車販売会社の社長さんは、自分だけでなく社員にも勧め、内観した人ほど販売成績が上がったという話をされました。お世話をなさっている社員の方は、社長を始め全員一見して素晴らしいお人柄が滲み出ておりました。

今回は内観後、毎週、葉書内観を池上先生の所へ送り続けている方もありました。私も妻と遠くは鹿児島県の懇話会まで出かけ、参加者の方のお話を聞くことで日常内観を離れていることへの反省をするきっかけとしております。私の家族も全員内観をする機会に恵まれ、今年は息子の嫁も転勤先の沖縄で受けさせて頂きました。

内観を通じて、どんな人生でも肯定的に受け止めることが出来れば肩に力が入らず自然体で幸せな人生が送れるように思います。懇話会を通じて内観の素晴らしさを二人でも多くの方にお伝え出来ればと思います。

## 「海外だより」 韓国への内観普及の第二步

心のいほり・内観瞑想センター所長 藤原 直達

五月二十一日から二十三日まで、日本内観学会の常任委員で国際交流委員を務める真栄城輝明先生と私の二人はソウルを訪問しました。ちょうど二年前、日本で行われた産業カウンセリング学会に参加した帰りに、朴教授(当時、人間関係学会会長、洪博士、李氏(カトリック出版社常務取締役)の三名が宝塚における内観面接中の私を訪問されました。面接現場を見学し、その後、寝屋川市にある私の「心のいほり・内観瞑想センター」において、話し合いを持ちました。彼らはぜひとも韓国に内観を普及させたい、自分たちも実際の内観を体験したいと申し出られたのでした。

その夏、韓国より三名が通訳者を伴って大和内観研修所で真栄城先生の所で集中内観を経験されました。同じく鹿児島・溝辺町での私の指導する内観に二名(洪先生とアルコール依存回復センター所長の許神父)が内観を受けられました。内観の後、鹿児島・指宿の竹元内観学会会長を訪問されました。彼らは帰国後直ちに韓国に内観学会を設立し、日本から講師を招く計画を立てておられました。この度それが実現したというわけでした。

五月二十二日ソウル市に到着の夜、韓国内観学会を立ち上げた主要メンバー、先に述べた三名および尹教授(現人間関係学会会長)たちが、私たちの歓迎会をコリア・ハウスにてもうけて下さいました。翌二十一日午前には、カトリックプレスセンターにおいて、「アルコール依存症者の家族の集い」の関係者、約三十名が集まり、内観についての講話とミニ内観を行いました。その際、ソウルのキリスト教典拠センターで購入した直径25センチもある大きな鐘をささそくに用いました。すなわち、鐘の音を聴くことに集中することを通して心を落ち着けるエクササイズの後、内観の方法とその効果を話しました。その後、短時間ではありましたが鐘を導入しながら間隔を取り、内観の三項目に沿って自分の心を調べるといふ、ミニ内観を体験していただきました。

当初計画されていませんでしたが、急遽、泊内観を受けたいとの申し出が

ありました。四名の神父と二名の男性がソウル市内のベネディクト会修道院・リトリートハウスにおいて内観(通訳 李昇雨氏)をされました。母に対する自分の身調べの一部分しか出来ませんでした。彼らの内観に対する意気込みには感心致しました。屏風なども整っておらず、食事も食堂で共同でというスタイルでしたが、泊内観としては中身の濃いものであったという印象を持つております。この泊内観後、彼らの熱心な質疑に対し真栄城と藤原は答える時間を持ちました。心理療法士と司祭、立場の違う内観面接者の応答によって、中身の深さと広がりを感じて頂けたのではないかと思います。

今回の訪韓の主要目的は、二十三日の韓国人間関係学会と韓国内観学会の共催による「組織における人間関係の葛藤および心理学的治療」というテーマのもとに内観を紹介することでした。韓国内観学会としては、最初の公開講演会でした。会場はソウル・プレジデントホテルに設けられ、大学関係者、アルコール回復施設の関係者、キリスト教会関係者、そして一般の参加者約百数十名が聴講。私は司祭の立場から、内観が如何に心の癒しや問題解決および信仰を深めるためによい方法であるかをお話ししました。

発表後、心理学研究者からいくつかの質問がありました。限られた時間のため、今回のテーマ(「組織における人間関係の葛藤および心理学的治療」)に沿った領域のみの答えとなりました。すなわち、三項目の問いかけが人間関係の歪みを正し、その結果、内観者は個人的に信用を得るようになり、内観者が増える組織は対外的にも信用を得るようになるという事実。日本では



韓国人間関係学会学術大会で講演する筆者(向かって右から2人目)

企業研修として内観が用いられていること、その効果を上げていることを報告しました。簡単な感想を述べますと、今後韓国において内観がカトリック教会(韓国におけるカトリック人口は全人口の十分の一強、約460万人)関係者を通して爆発的に普及するだろうとの予感が致します。そのためには、韓国に内観面接者の養成と関係文書のハンダ語訳が必要であろうと思われまふ。

## ドイツに咲いた蓮の華

多布施内観研修所所長 池上 吉彦

五ヶ国百名から成る第五回内観国際会議が九月六、七の両日、ドイツで開催された。内観の生みの親吉本伊信が宿善開発して「この欲びこの感激を世界中の人に広めたい、世界中の人が助かつて欲しい」と願った夢を、石井光が叶え、三年一回の国際会議も五回を重ねた。吉本は内観普及のために財を積み、これを擲つて内観の根を下ろし、そして育んだ。石井もまた私財を擲つてそれをヨーロッパに移植し水をやり続けた。

石井はその師柳田鶴声から次のように言われたことをかつて述懐している。集中内観中に母親の価値観を否定したとき「あなたは蓮の華で、お母さんは蓮根だ。あなたは泥沼に入らないで養分を全部受けて咲いている。華が根この悪口言つてるようなんだね」と言われて閉口した、と。

私たちが根の恵みとしての花を愛でるとき、花の美しさは讃えてもその根に感謝することは少ない。内観の国際化ということについては、私を捨てて人助けに尽瘁した吉本と石井という二つの根への感謝を忘れてはならない。また吉本と石井のご家族の陰の力にも思いを致すべきであろう。

さて、ドイツ内観協会の面々の力によって執り行われた第五回会議の全容はいずれ報告書となつて諸子にまみえるであろうが、ここでは紙数の限り報告をしておきたい。私のA6版ノート五十六頁に会の全てを記録し得たのは同時通訳者お二人のお陰である。その才能を多としたい。

発表数はドイツ七、オーストリア六、日本十二で総数二十四本、挨拶等六本計三十であった。

会議はヨアヒム・ポッテンミュラーの格式あるしかも軽妙な司会で

流れて行つたが、発表のいちいちを再現する余裕はないので、二、三所感を述べるにとどめた。

夙に言われているように、内観への感受が同一であることを感じた。「人生は自分のみアンフェアだと長年かけて依存症になった者が、内観をしてアルガママの自分を認め得た時治つた」というドイツの発表は、竹元が発表の時に述べた、「治療の上に人生の幸福を得るのは内観療法の独自性である」という言葉の証明だと思つた。

また、ブレメン州の文部省の肝いりで学校に内観を採り入れることになり、その研究指定校が試行錯誤しながら進めている報告は、刑務所に毎月二日内観に通つているという報告と共に、公が内観の推進役になつているという面で素晴らしいと思うと共に、若き吉本が、矯正施設に内観を浸透させ、学校にも生かして行つたことが、まだ公の実りになつていない残念を思う。

また、経営の面で臨機に内観を応用できる場合の報告や、労働組合等の要請に応じて内観の年間カリキュラムを作成し提供するやり方などのオーストリアの報告は刺激になつた。しかもこういう原法から離れている様な形でも、おやりになつている当人の中には原法そのものが生きていることを強く感じさせられて頼もしかった。そういう意味では長島の「原法の話」は大切であつたと思う。

会議後の施設見学には触れられなかったが、私個人としては大いに啓発された。これからやってみたくとも胸に湧いた。三年後はウィーンで開催。

ドイツに咲いた蓮の華、その蓮根を思いつつ。



第五回内観国際会議の参加者

# 第十五回内観療法ワークショップへの誘い

第十五回内観療法ワークショップ事務局長 清水 康弘

日程：平成十五年十二月二十三日(土)～二十四日(日)

会場：ハートピアきつれ川

テーマ：感動が人生を変える

申し込み：瞑想の森内観研修所(TEL)〇二八六八六五〇二〇

シンポジウムの諸先生方も、ただ内観を体験なされたに留まらず、その後も内観を世に広めようと活動されるのには、やはりその背景に自身の深い感動の体験があると思ひ、シンポジウムのタイトルを「内観に魅せられた理由」とし、ご自分の原点を語っていただこうと考えております。

特別講演の致知出版社長の藤尾秀昭氏は、月刊誌「致知」創刊以来二五年間にわたって人間学を追究されており、ご自身の内観体験と共に幅広い視野に立つてのお話しに期待しております。

体験発表者の中におひとり、小久保裕紀氏は、周知の通りプロ野球福岡ダイエーホークスの4番打者ですが、ホームラン王になるべく昨年集中内観され、自他共に認めるほど好調でしたが、4月のオープン戦中に今期絶望の大怪我をされました。只今リハビリ中ですが、「この怪我があつて良かった」と非常に明るく、お見舞いに行つた方々が逆に励まされてしまうほどだそうです。吉本伊信先生の「内観は、どのような逆境であつても喜んで暮らせる心境に転換する」というお言葉が蘇り、どんなお話しがうかがえるか楽しみです。

また、開催会場の「ハートピアきつれ川」は、(財)全国精神障害者家族会連合会が、精神障害者の社会復帰の促進を図るため、障害者やその家族をはじめ一般の方々に宿泊・研修等のサービスを提供する、日本初の保養施設と授産施設を併設した精神保養福祉施設です。是非この機会にご来臨いただければ幸いです。

# 平成十六年の第二十七回大会は神戸で

大会実行委員長

神戸松蔭女子学院大学教授 三木 善彦

日程：平成十六年五月二十一日(金)～二十三日(日)

会場：神戸松蔭女子学院大学(神戸市灘区：阪急「六甲」、

JR「六甲道」下車、タクシーで十分以内)

大会テーマ：「面接者の資質向上」

一日目は、常任委員会や運営委員会の後、夕方から倫理委員会企画のシンポジウムを行います。その後、大学の構内にあるチャペルでパイオルガンの演奏会で一息ついてから事例検討会を予定しています。

二日目の午前中は一般演題の発表が、一題二十分(発表十五分、質疑応答五分)で行われます。午後は総会の後は一般演題発表と、シンポジウム「面接者の資質向上」があります。シンポでは面接者としてどのような失敗があり、それをどのように克服してきたかなど本音の議論が交わされる予定です。

夕方から恒例の懇親会があり、和やかな交流の輪が広がることでしょう。少し早い目に終わりますので、後は港・神戸の夜景を楽しんで、場所を代えて歓談の時を過ごすのもよいでしょう。

三日目の午前中は一般演題、午後は公開講座として、内観の紹介と体験発表があります。そして、講演「よい面接者の条件」と題して、精神科医であり臨床心理士であるベテランの臨床家に、患者から見たよい面接者像を語っていただきます。

## 広報編集委員

## 原稿の送り先

石井 光 (青山学院大学)

木村 秀子 (米子内観研修所)

真栄城 輝明 (大和内観研修所)

〒1133 奈良県大和郡山田町九一 大和内観研修所

TEL (〇七四三) 五二一五七九

FAX (〇七四三) 五四一三七六  
E-mail naikans3@nifty.com